

九州生乳販連会報



TOPICS

酪農情勢報告	1
令和5年度季節別乳価について	3
令和4年度会員別生乳受託販売数量	4
令和4年度月別受託生乳検査成績	4
令和4年度販売状況について	5
酪農経営改善・需給均衡対策事業について	6
指定団体の重要性および取引契約の遵守について	8
酪農理解醸成・牛乳消費拡大対策事業 お知らせとご報告	10
新聞広告を掲載しました	13
PAGs検査の利用について	16

酪農情勢報告

1. 九州の生乳出荷戸数

令和4年9月の生乳出荷戸数は1,145戸で、令和4年3月時点の1,186戸と比較すると41戸減少しています。

2. 九州の乳用種雌牛飼養頭数と出生頭数

7～9月の23カ月令以下の頭数は前年を上回って推移した一方、24カ月令以上の頭数は前年を下回って推移しており、総頭数でも前年を下回った推移となりました(表1)。

表1 乳用種雌牛飼養頭数 (単位:頭)

	7月	8月	9月
23カ月令以下	29,184	29,132	28,844
	増減	913	832
	前年比	103.2%	102.9%
24カ月令以上	73,318	73,429	73,391
	増減	-1,556	-1,742
	前年比	97.9%	97.7%
総頭数	102,502	102,561	102,235
	増減	-643	-910
	前年比	99.4%	98.9%

注:Jミルクホームページより

出生総頭数は、6月は前年を上回った一方、7・8月は前年を下回り、6～8月合計では前年を下回りました。また、その内訳として、乳用種雌は前年を上回り、乳用種雄と交雑種は前年を下回りました(表2)。

表2 出生頭数 (単位:頭)

	6月	7月	8月	累計(6-8月)
総頭数	3,146	3,851	4,515	11,512
	増減	508	-315	-485
	前年比	119.3%	92.4%	90.3%
うち、乳用種雌	859	1,028	1,218	3,105
	増減	263	0	-55
	前年比	144.1%	100.0%	95.7%
うち、乳用種雄	365	494	638	1,497
	増減	64	-115	-74
	前年比	121.3%	81.1%	89.6%
うち、交雑種	1,307	1,684	1,933	4,924
	増減	135	-306	-479
	前年比	111.5%	84.6%	80.1%

注:Jミルクホームページより

3. 生乳需給

(1) 生乳受託販売数量

7～9月の生乳受託販売数量は、昨年在8月中下旬の豪雨時に気温が低下した影響もあり好調に推移した一方、今年が猛暑による暑熱ダメージを大きく受けた

(2ページへ続く)

こと、また、飼料価格を始めとする生乳生産資材価格の高騰で厳しい酪農環境が続いていること、生産抑制の取組が続いていること、9月には台風14号の影響により生乳廃棄被害が発生したこと等により、前年を大きく下回って推移しました。また、同期間中の都府県・北海道はともに7月が前年を上回った一方で8・9月は前年を下回り、全国の期間合計では若干前年を下回りました(表3)。

表3 生乳受託販売数量 (単位: t、%)

	7月	8月	9月	累計(7-9月)
九州	47,034	44,199	43,661	134,894
前年比	97.9%	93.1%	94.3%	95.1%
都府県	253,678	242,377	238,596	734,650
前年比	100.2%	97.8%	98.2%	98.8%
北海道	352,934	347,289	330,843	1,031,066
前年比	100.5%	99.9%	98.0%	99.5%
全国	606,611	589,666	569,438	1,765,716
前年比	100.4%	99.0%	98.1%	99.2%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より
注:公共除く。ただし、都府県の内訳として中国のみ公共含む。

(2)生乳販売状況

国際情勢や円安の進行による光熱費や燃料費の高騰を受けた食料品等の値上げが相次ぎ、消費全般は低迷する環境にあります。こうした中、九州の7～9月の生乳販売状況は、今年は夏場の暑さが厳しく、生乳生産が前年を大きく下回る一方で飲用消費が伸び、瞬間的に生乳需給が逼迫したタイミングもありましたが、飲用需要の好調が長続きせず、需給が緩和したタイミング

もありました。こうした中、7～9月の期間合計では、域内飲用その他域内需要が堅調に推移し、域外飲用および脱脂粉乳・バター等向けでの調整を行った結果、域外飲用と脱脂粉乳・バター等向けが前年を下回り、はっ酵乳等向け、クリーム等向け、チーズ向けはほぼ前年並みとなりました。

また、同期間中の全国の生乳販売状況は、飲用向け、脱脂粉乳・バター等向けともに前年を若干下回った水準での推移となりました(表4)。

表4 用途別販売数量 (単位: t、%)

	用途	7月	8月	9月	累計(7-9月)
九州	飲用 (前年比)	34,478 98.3%	31,939 95.9%	33,473 93.6%	99,890 95.9%
	はっ酵乳 (前年比)	7,656 98.2%	7,438 101.9%	7,137 99.4%	22,230 99.8%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	2,552 89.5%	2,482 54.9%	800 68.4%	5,834 68.3%
	生クリーム (前年比)	2,253 100.9%	2,245 99.3%	2,156 102.0%	6,654 100.7%
	チーズ (前年比)	95 100.7%	95 99.8%	95 100.1%	285 100.2%
全国	飲用 (前年比)	270,401 99.8%	258,216 98.3%	274,873 98.3%	803,490 98.8%
	はっ酵乳 (前年比)	39,931 100.0%	39,341 100.5%	36,886 99.5%	116,158 100.0%
	脱脂粉乳・バター等 (前年比)	143,899 100.6%	147,261 98.2%	116,665 94.6%	407,825 98.0%
	生クリーム (前年比)	112,332 99.2%	107,225 99.3%	105,926 99.7%	325,483 99.4%
	チーズ (前年比)	40,049 107.9%	37,623 105.3%	35,088 102.5%	112,760 105.3%

注:中央酪農会議 用途別販売実績(速報)より

4. 今後の生乳需給について

長引く新型コロナウイルスの影響により業務用需要・インバウンド需要が減少し、乳製品在庫の積み増しが大きな課題となっていますが、現在、生乳生産抑制の効果が徐々に現れてきており、乳製品向け生乳販売量が抑えられていることに加え、脱脂粉乳については在庫削減対策により、バターは外国人観光客の入国規制の緩和に伴うインバウンド需要の回復により、それぞれ直近の在庫の積み増しは回避されています。

一方で、飼料価格を始めとする生乳生産資材価格の高騰を受け、各乳業者との飲用向けとはっ酵乳等向けの生乳取引価格が令和4年11月分から改定となり、今後は価格改定に伴う需要の減退とそれに伴う乳製品向け処理量の増加・在庫の積み増し、処理不可能乳の発生が懸念されています。

(一社)中央酪農会議はこの価格改定に伴う需要減退を含む生乳需給均衡への対応として、10月から酪農経

営改善・需給均衡対策事業における現行計画の年内前倒しと追加的な取組(全国で7,100頭)の実施を決定し、要件の一部変更が行われました(詳細は6～7ページ参照)。本事業は酪農経営改善の目的も含まれており、事業趣旨をご理解のうえ、引き続き事業へのご協力をよろしくお願いいたします。

本会としましては、今後も域内・域外乳業者、全国連との飲用化促進への協議・取組の実施を継続するとともに、牛乳消費拡大への取り組み等を積極的に進め、少しでも九州産生乳の有利販売に繋げられるよう取り組んでまいります。



令和5年度季節別乳価について

季節別乳価実施要領に基づく令和5年度季節別乳価調整率については、令和4年10月18日開催の第2回生乳受託販売委員会での協議を踏まえ、同11月2日開催の第9回理事会にて、令和4年度の調整率から一部変更を行い、以下の調整率にて実施されることが決定いたしました。

表：季節別乳価調整率(%)の変更

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末
R4	94	94	100	110	111	114	105	100	93	92	92	92	3
調整内容	—	—	—	—	△1	—	—	—	—	+1	+1	+1	△2
R5	94	94	100	110	110	114	105	100	93	93	93	93	1

季節別乳価は、平成13年度まで各会員段階で実施されていたものを、平成14年度からは九州統一の要領で実施しています。生産者が需要を意識して生乳生産に取り組むことで、夏場に需要が多い飲用向けへの供給量を増やし、乳価を維持・向上させ、生産者手取り乳価の増加に繋げることを目的としています。

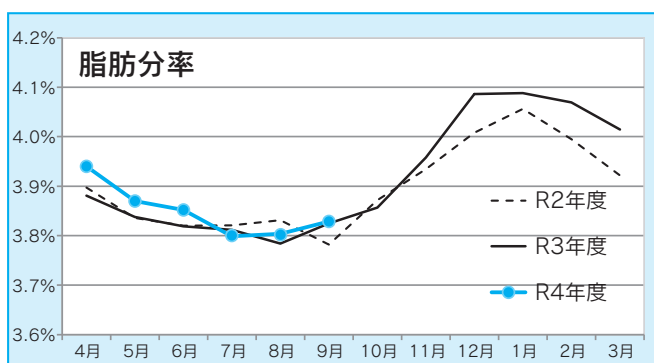
生産者の皆様におかれましては、引き続き、需要期生産に向けた取り組みにご協力いただきますようお願いいたします。

令和4年度会員別生乳受託販売数量

(単位: t、%)

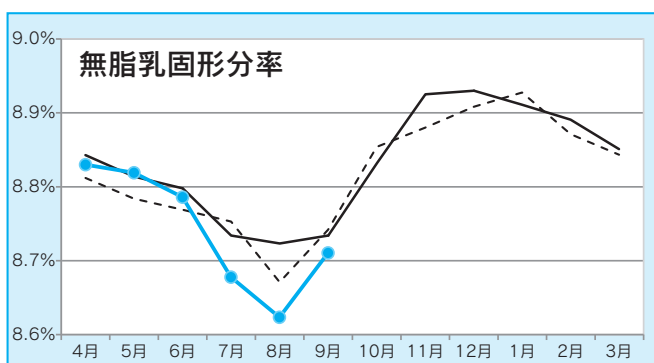
	ふくおか県酪協		佐賀県農協		長崎県酪連		熊本県酪連		大分県酪協		宮崎県経済連		鹿児島県酪協		合 計	
	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比	実 績	前年比
4-6計	18,165	95.7	3,687	98.6	9,049	96.0	69,137	100.7	17,930	97.0	19,025	99.6	18,419	90.9	155,411	98.0
7月	5,480	93.4	1,081	96.9	2,645	95.3	21,449	100.9	5,526	97.7	5,846	100.8	5,352	90.3	47,378	97.9
8月	5,117	88.9	987	91.1	2,448	89.2	20,319	96.9	5,329	96.1	5,420	94.2	4,909	82.3	44,528	93.1
9月	5,129	90.8	998	92.7	2,437	92.0	20,112	98.1	5,302	97.2	5,268	93.3	4,729	83.4	43,975	94.3
上期合計	33,891	93.5	6,752	96.3	16,578	94.2	131,016	99.7	34,086	97.0	35,558	98.0	33,410	88.3	291,292	96.6

令和4年度 月別受託生乳検査成績



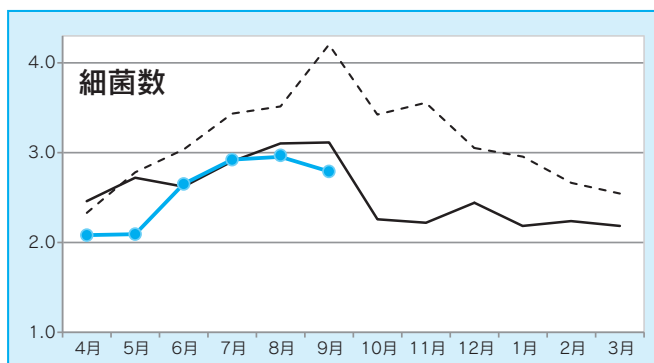
R2年度	3.90	3.84	3.82	3.82	3.83	3.78	3.87	3.93	4.01	4.06	4.00	3.92
R3年度	3.88	3.84	3.82	3.81	3.78	3.83	3.86	3.96	4.09	4.09	4.07	4.01
R4年度	3.94	3.87	3.85	3.80	3.80	3.83						

(単位: %)

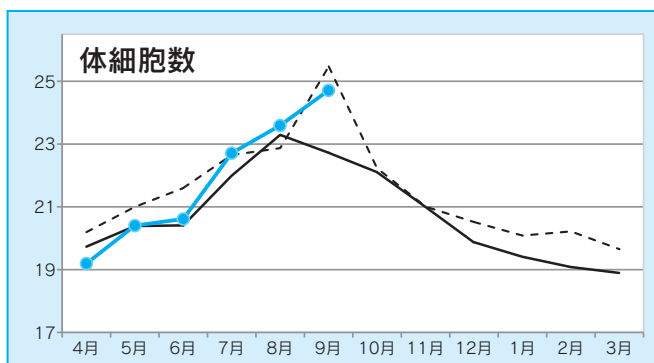


R2年度	8.81	8.78	8.77	8.75	8.67	8.74	8.85	8.88	8.91	8.93	8.87	8.84
R3年度	8.84	8.81	8.80	8.73	8.72	8.73	8.83	8.93	8.93	8.91	8.89	8.85
R4年度	8.83	8.82	8.79	8.68	8.62	8.71						

(単位: %)



R2年度	2.3	2.8	3.0	3.4	3.5	4.2	3.4	3.6	3.1	3.0	2.7	2.5
R3年度	2.5	2.7	2.6	2.9	3.1	3.1	2.3	2.2	2.4	2.2	2.2	2.2
R4年度	2.1	2.1	2.7	2.9	3.0	2.8						



R2年度	20.2	21.0	21.6	22.7	22.9	25.5	22.2	21.0	20.5	20.1	20.2	19.7
R3年度	19.7	20.4	20.4	22.0	23.3	22.7	22.1	21.0	19.9	19.4	19.1	18.9
R4年度	19.2	20.4	20.6	22.7	23.6	24.7						

令和4年度販売状況について

用途別生乳販売実績

(単位 数量:t、前年比:%、単価:円/kg)

用 途		7月			8月			9月			第2四半期計			年度累計		
		数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価	数 量	前年比	単価
飲用等向け	域内飲用向け	26,880	102.3	114.705	27,065	98.9	114.306	25,459	99.0	115.344	79,404	100.1	114.789	153,416	99.8	114.889
	学校給食向け	2,554	88.0		466	131.9		4,016	101.0		7,036	97.3		18,416	97.3	
	域外飲用向け	5,308	85.7		4,651	79.4		4,252	66.8		14,211	77.2		39,356	87.5	
	飲用牛乳等向け	34,742	98.2		32,183	95.9		33,727	93.5		100,651	95.9		211,189	97.0	
	はっ酵乳等向け	7,656	98.2		7,438	101.9		7,137	99.4		22,230	99.8		43,841	99.1	
	飲用等向け合計	42,398	98.2		39,620	96.9		40,863	94.5		122,882	96.6		255,030	97.4	
特定乳製品向け	脱脂粉乳・バター等向け	2,602	90.2	81.637	2,545	55.7	81.754	834	70.2	85.155	5,982	69.2	82.524	21,669	86.4	80.660
	クリーム等向け	2,282	101.4		2,267	99.6		2,183	102.5		6,732	101.2		14,019	100.7	
	チ ー ズ 向 け	95	100.7		95	99.8		95	100.1		285	100.2		575	100.3	
	特定乳製品向け計	4,980	95.2		4,907	70.7		3,112	91.2		13,000	83.4		36,262	91.6	
販 売 乳 量 合 計		47,378	97.9	111.229	44,528	93.1	110.718	43,975	94.3	113.208	135,881	95.1	111.702	291,292	96.6	110.628

支払乳代

(単位 金額:千円、単価:円/kg)

項 目	7月		8月		9月		第2四半期計		年度累計	
	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価	金 額	単価
基 本 乳 代 ①	5,269,824	111.229	4,930,031	110.718	4,978,343	113.208	15,178,197	111.702	32,224,998	110.628
脂 肪 分 加 算 金	29,432	0.621	24,948	0.560	28,114	0.639	82,494	0.607	202,468	0.695
無脂固形分加算金	33,554	0.708	28,354	0.637	34,318	0.780	96,226	0.708	248,165	0.852
成分加算金計②	62,986	1.329	53,302	1.197	62,433	1.420	178,721	1.315	450,633	1.547
季節別調整率③	110%	-	111%	-	114%	-	-	-	-	-
季節別調整金	526,982	11.123	542,303	12.179	696,968	15.849	1,766,254	12.999	1,075,808	3.693
調整後乳代④=①×③	5,796,806	122.352	5,472,334	122.897	5,675,311	129.057	16,944,451	124.701	33,300,807	114.321
販 売 手 数 料	15,998	0.338	14,950	0.336	15,122	0.344	46,071	0.339	98,027	0.337
生 乳 検 査 料	5,685	0.120	5,343	0.120	5,277	0.120	16,306	0.120	34,955	0.120
送 乳 経 費	177,929	3.756	169,158	3.799	157,954	3.592	505,041	3.717	1,129,235	3.877
需要者負担額(運賃補填)	-2,528	-0.053	-2,603	-0.058	-2,855	-0.065	-7,986	-0.059	-16,210	-0.056
C S ・ 冷 却 費	47,241	0.997	45,494	1.022	45,661	1.038	138,396	1.019	299,032	1.027
集 乳 経 費	110,068	2.323	103,652	2.328	102,174	2.323	315,894	2.325	673,919	2.314
プ ール 費 用 ⑤	354,394	7.480	335,995	7.546	323,333	7.353	1,013,721	7.460	2,218,957	7.618
差引乳価②+④-⑤	5,505,398	116.202	5,189,642	116.548	5,414,411	123.124	16,109,450	118.555	31,532,483	108.250

酪農経営改善・需給均衡対策事業

低能力牛等の早期更新について、

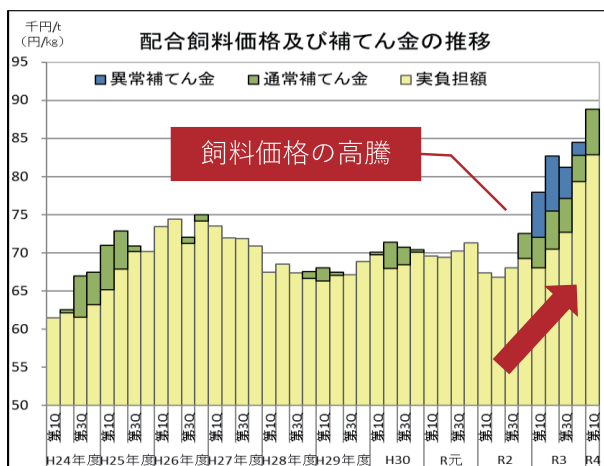
- ・ 現行の取組計画から「年内の前倒し実施」
- ・ 都府県全体での「追加的な取組み(7,100頭)」
にご協力をお願いします

背景は...

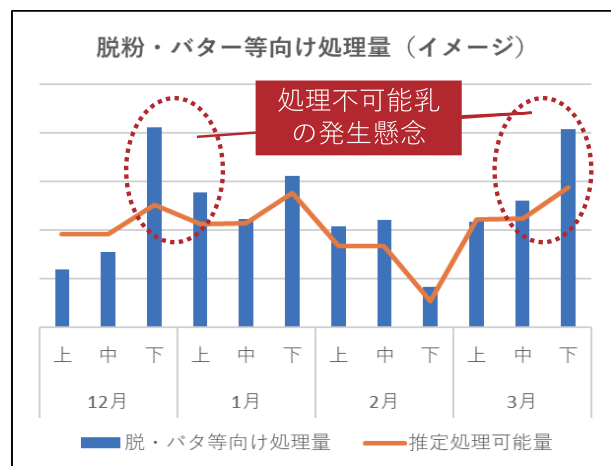


皆様にはこれまで多大なご協力をいただいておりますが、飲用等向けの価格改定に伴う需要低迷も危惧され、酪農経営・生乳需給は依然厳しい情勢です

飼料など生産資材の高騰

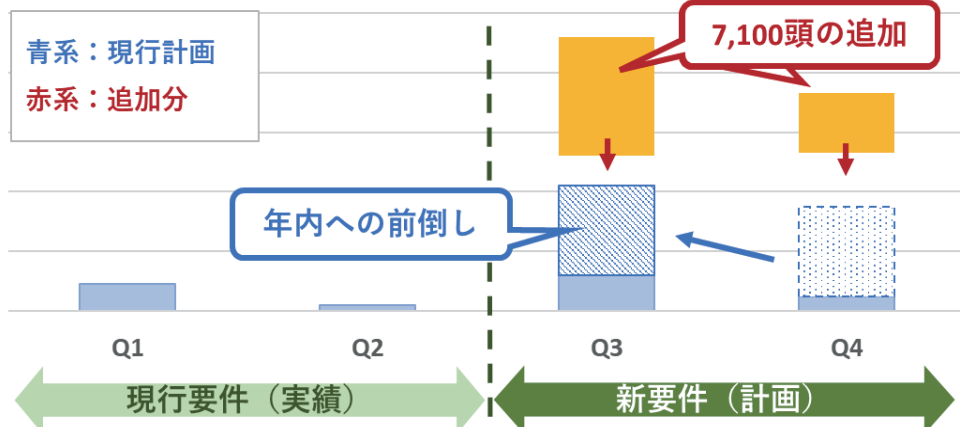


処理不可能乳の発生懸念



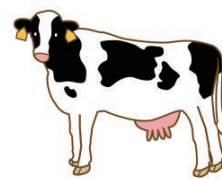
危機的状況を改善していくため
本取組の「年内前倒し」や「追加」が必要です

10/1以降の事業イメージ (頭数)



本事業の取組推進のため...

10月1日より、事業要件が緩和されました



© 2020 Japan Dairy Council

【変更点】事業対象となる乳用牛の要件

- ◆ 令和4年3月1日から9月30日までの期間において、選別（と畜）時点で、30ヶ月齢以上～48ヶ月齢未満
- ◆ 令和4年10月1日から令和5年2月28日の期間において、選別（と畜）時点で、30ヶ月齢以上～60ヶ月齢未満
- ◆ 酪農経営一戸当たり25頭までを上限とし、当該上限頭数に令和4年度の指定団体への委託割合を乗じた頭数とする。

※ その他要件の変更はございません。

10月1日以降の取組分より、
対象月齢が「60ヶ月齢未満」に広がりました



© 2020 Japan Dairy Council

事業要件を緩和し、「年内の前倒し実施」や「追加的な取組み」を行っていただくことにより、
酪農経営・生乳需給の改善を目指します



© 2020 Japan Dairy Council

© 2020 Japan Dairy Council

酪農家の皆さま
ご協力をよろしくお願いします！

九州生乳販売農業協同組合連合会
一般社団法人 中央酪農会議

酪農家の皆様に知っていただきたい

指定団体を通して 生乳を出荷するメリットってなに？

Merit

1

補給金がもらえる

指定団体は、加工原料乳生産者補給金と集送乳調整金の交付を受けることができる指定事業者です。



Merit

2

条件不利地でも 集乳してもらえる

条件不利地にある牧場であっても、域内であれば集乳します。効率的な集送乳ラインとなるよう工夫し、集送乳経費やローリーの手配などを合理化することで、経費の削減に取り組んでいます。



Merit

3

価格交渉力が強い

乳業メーカーとの乳価交渉において、取り扱う生乳のシェアが多く、価格交渉力が強いです。また、指定団体が長年培ってきたデータや経験、乳業からの信頼などは指定団体の強みです。



Merit

4

販売調整力が強い

複数の販売先と契約しているため、販売調整力が強く、有利かつ安定的に生乳を売り切ることができます。さらに、全国の指定団体・全国連で協力できるため、災害や需要の増減等に柔軟に対応しています。

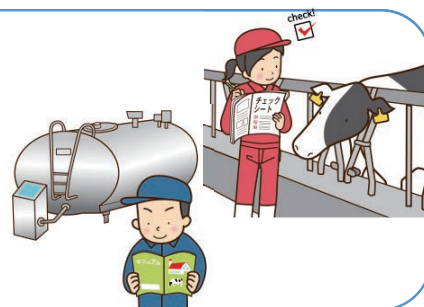


Merit

5

安全安心を担保

チェックシートを配布し、記帳記録を推進するなど、生産者の皆さんが安全安心な生乳を出荷できる仕組みづくりを行っています。また、各種検査を行い、指定団体が乳業者に生乳の安全安心を担保しています。



指定団体をご活用ください

個々では成しえないことも、皆で団結して課題を解決することで、より有利で安定的な酪農経営を実現することができます。

そのお手伝いをするのが、指定団体です。



生乳取引契約を 守りましょう

Q なぜ契約が必要なの？



A 契約は商取引の基本

生乳の販売先（事業者）との契約は、両者の合意に基づき成立するものであり、締結後は、契約当事者双方に守る義務が生じます。

A 生乳の安定供給のため

生乳は毎日生産されるものであり、安定的に牛乳・乳製品を消費者に供給するためには、年間を通じた契約に基づいて取引することが重要です。

Q 契約を破るとどうなるの？



A 自身や多くの関係者・消費者に不利益が波及

指定団体は、酪農家の皆様との契約をもとに乳業と契約を結んでいるため、当初の数量を出荷できなくなり、乳業者に不利益を与えてしまったり、消費者に安定的に牛乳・乳製品を届けることが難しくなってしまいます。

また、一般的に、契約を履行しなかった場合、損害賠償請求や契約の解除などを求められるケースもあります。

毎年生乳受託販売契約（覚書）の更新と共に、酪農家の皆様にご提出いただいている「生乳委託計画」も契約の一部です。委託数量を一方的に変動させることも契約違反となる可能性がありますので、ご注意ください。



一般社団法人 **中央酪農会議**
Japan Dairy Council

九州生乳販売農業協同組合連合会

「ハッピーミルクフェスタin熊本」開催！

11月6日（日）に、熊本県上益城郡嘉島町の『イオンモール熊本』にて、日頃より牛乳をご愛飲いただいている生活者の皆様に感謝の気持ちを伝えるとともに、11月から牛乳の値上げが実施された中、今後も変わりなく牛乳をご愛飲いただけるよう生活者に直接呼びかけるイベント「ハッピーミルクフェスタin熊本」を開催しました。

今回は6月に引き続き九州酪農青年女性会議のご協力を得て九州7県の酪農家にご参加いただき、九州の酪農についてアピールするとともに、牛乳消費拡大を訴えました。

ステージでは、酪農家とMCによる日頃の牛乳ご愛飲に対する感謝の気持ちや酪農の魅力を伝えるトーク、親子で楽しめる酪農・牛乳クイズ大会を実施しました。

また、イベントフロアでは、模擬牛を使用した搾乳・哺乳体験、飼料展示を通じたスタンプラリーやぬりえコーナー等を展開しました。

リーフレット・チラシ・LL牛乳のサンプリングでは、会場周辺および店内で配布し、用意していた3,000セットは好評のうちにすべて配り終えることができました。

これからも九州の酪農・牛乳の魅力を丁寧に伝え、九州産牛乳の消費拡大に取り組んでいきます。



○ 愛飲感謝トークショー



○ 搾乳体験の様子



○ 哺乳体験の様子



○ 飼料展示



○ 酪農・牛乳クイズ大会



○ サンプリング

みんな知ってる?ミルククイズキャンペーン実施中! (11月1日~12月5日)

現在Twitterで実施しているキャンペーンで、Twitterにて毎週1回出題される酪農・牛乳に関するクイズに回答していただいた方の中から抽選で賞品をプレゼントします。九州の酪農・牛乳に対する興味関心に繋がるよう実施していきます。



イオン九州とのタイアップキャンペーンのお知らせ (12月下旬~1月末)

九州内のイオン、マックスバリュ、ザ・ビッグ(計246店舗)で、キャンペーンの対象となる成分無調整牛乳を購入し、応募していただいた方の中から抽選で豪華賞品が当たるプレゼントキャンペーンを実施します。3回目の実施となりますが、これまでより期間を前倒して実施することで年末年始の牛乳消費拡大に繋がられるよう取り組みます。

牛乳・乳製品料理促進キャンペーンのお知らせ (12月下旬~1月末)

福岡県在住の料理研究家「Yuu」さんが考案した牛乳・乳製品を使った時短料理をお手本に、作った料理の写真をInstagramに投稿していただいた方の中から抽選で賞品をプレゼントするキャンペーンを実施します。こちらのキャンペーンも年末年始期間から実施します。

＼ 九販連公式ホームページ・SNSアカウントはこちら! ／

ホームページ	https://kyuhanren.com/
Facebook	https://www.facebook.com/kyuhanren/
Instagram	https://www.instagram.com/kyusyulovemilkclub/
Twitter	https://twitter.com/love_milk_club



酪農教育ファームスキルアップ研修会が開催されました！

酪農教育ファーム活動の基本である「安全・衛生・防疫対策」について再確認するとともに、ワークショップを通じて、ファシリテーションスキルの向上を目的としたスキルアップ研修会が10月14日（金）に福岡会場で開催されました。

昨年度までは新型コロナ禍のためオンラインで開催されていましたが、今年度は3年ぶりに対面にて開催されました。

この研修会は酪農教育ファームファシリテーターを対象としており、受講することで認証更新の要件を満たすことができます。

今回のワークショップでは、(株)musuhiの石川世太氏の主導により、久しぶりに顔を合わせた参加者はそれぞれの悩みや酪農教育ファーム活動への取組みについて話し合い参加者同士共有することで、今後の酪農教育ファーム活動への意欲向上につながりました。



酪農教育ファーム実践研究集会在開催されました！

（一社）中央酪農会議と教育関係者で構成される日本酪農教育ファーム研究会の主催で10月23日（日）に酪農教育ファーム実践研究集会在開催されました。新型コロナ禍のため昨年に引き続きオンラインにて開催となりましたが、約50名の教育関係者と酪農関係者による活発な意見交換が行われました。

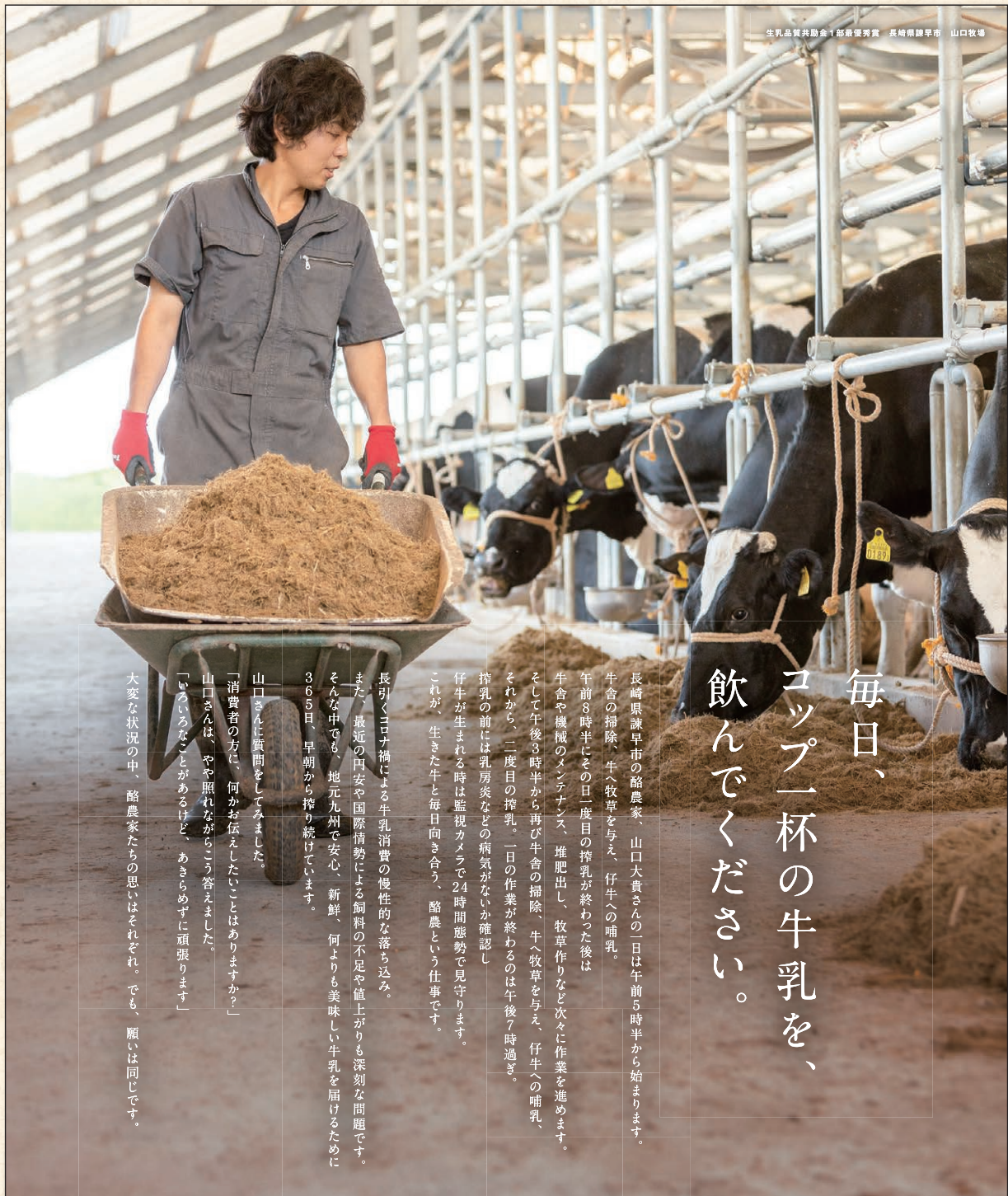
酪農家による「私の牧場の状況について」の発表では、飼料高騰や副産物収入の減少などでコスト上昇への対応に苦しんでいると説明されました。実践発表では、墨田区立第三寺島小学校の山口先生が学校で実施したモーモースクールについて話されました。酪農体験だけではなく、事前学習や事後学習も行うことでより意欲的に学習に取り組むことができたと話されました。

また、最後にグループディスカッションを行い、現在の酪農情勢について感じたことや、このような状況の中でも酪農教育ファーム活動を続ける意義について話し合い、参加者にとって貴重な時間となりました。



新聞広告を掲載しました check!

生乳品質共励会1部最優秀賞 長崎県諫早市 山口牧場



毎日、
コップ一杯の牛乳を、
飲んでください。

長崎県諫早市の酪農家、山口大貴さんの一日は午前5時半から始まります。牛舎の掃除、牛へ牧草を与え、仔牛への哺乳。
午前8時半にその日一度目の搾乳が終わった後は
牛舎や機械のメンテナンス、堆肥出し、牧草作りなど次々に作業を進めます。
そして午後3時半から再び牛舎の掃除、牛へ牧草を与え、仔牛への哺乳、それから、二度目の搾乳。一日の作業が終わるのは午後7時過ぎ。
搾乳の前には乳房炎などの病気がないか確認し
仔牛が生まれる時は監視カメラで24時間態勢で見守ります。
これが、生きた牛と毎日向き合う、酪農という仕事です。

長引くコロナ禍による牛乳消費の慢性的な落ち込み。
また、最近の円安や国際情勢による飼料の不足や値上がりも深刻な問題です。
そんな中でも、地元九州で安心、新鮮、何よりも美味しい牛乳を届けるために
365日、早朝から搾り続けています。

山口さんに質問してみました。
「消費者の方に、何かお伝えしたいことはありますか？」
山口さんは、やや照れながらこう答えました。
「いろいろなことがあるけど、あきらめずに頑張ります」
大変な状況の中、酪農家たちの思いはそれぞれ。でも、願いは同じです。

ミルキープ
MILKEEP! 牛乳を、まもろう。

九州の空と風と大地から。九州 Love Milk Club www.milutemiku.jp

生乳生産者需要確保事業 (独)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援



◆8月27日(土)掲載 令和3年度生乳品質共励会第1部最優秀賞:長崎県諫早市・山口牧場さん

毎日、コップ一杯の牛乳を、飲んでください。MILKEEP!

毎日、コップ一杯の牛乳を、 飲んでください。

長崎県大村市の酪農家、松谷圭一郎さんと妻・茜さんの一日は午前5時半から始まります。牛舎の掃除、牛へ牧草を与え、寝床の掃除。

午前7時半に一度目の搾乳が終わった後は牧草を与え→寝床づくり→夕方の飼料作りというルーティンを繰り返し、午後6時に2度目の搾乳。

その後、牛がゆったりとくつろいでいるかを観察し、午後8時半過ぎに一日の作業が終わります。

松谷さんは1年半前から牧場にAIを導入。一頭一頭にセンサーをつけて

クラウドデータを取得し24時間健康状態をチェックしています。

酪農家としての経験とデータ分析の二刀流で

牛のコンディションを一定に保つ努力を重ねています。

長引くコロナ禍による牛乳消費の慢性的な落ち込み。

また、最近の円安や国際情勢による飼料の不足や値上がりも深刻な問題です。

「厳しい状況ですが、乳質を落としたい」と松谷さん。

地元九州の新鮮でおいしい牛乳を一日コップ一杯、飲んでほしい。

酪農家たちは思いを込めて、365日、早朝から搾り続けています。

松谷さんに質問をしました。

「消費者の方に、何かお伝えしたいことはありますか？」

松谷さんは、にっこり笑ってこう答えました。

「『おいしい』という言葉が聞ければ、苦労は吹っ飛びます」

大変な状況の中、酪農家たちの思いはそれぞれ。でも、願いは同じです。

ミルキープ
MILKEEP!
牛乳を、まもろう。

生乳品質共励会2部最優秀賞 長崎県大村市 松谷牧場

九州の空と風と大地から。九州 Love Milk Club www.milrutomiku.jp

生乳生産者需要確保事業 (独)農畜産業振興機構 (一社)中央酪農会議 後援



◆10月29日(土)掲載 令和3年度生乳品質共励会第2部最優秀賞:長崎県大村市・松谷牧場さん

新聞を使った酪農理解醸成活動として、長引くコロナ禍による牛乳消費の慢性的な落ち込みに加え、国際情勢、また円安の進行による飼料価格の高騰で酪農経営が厳しさを増している中、酪農家の普段どおりの姿と率直な言葉を通じ、『毎日、コップ一杯の牛乳を、飲んでください』と生活者に訴えました。新聞広告のモデルは、令和3年度生乳品質共励会最優秀賞受賞者の長崎県諫早市・山口牧場さん【8月27日（土）掲出】、長崎県大村市・松谷牧場さん、熊本県菊池市・隈部牧場さん【10月29日（土）掲出】でした。

毎日、 コップ一杯の牛乳を、 飲んでください。

熊本県菊池市七城町の酪農家、隈部憲一郎さんの一日は午前5時から始まります。

牛の観察、牛舎の掃除にはじまり、妻・雅子さんと従業員と一緒に朝の搾乳。

その後、仔牛への哺乳、搾乳室の掃除、飼料作り、堆肥出しなど

さまざまな作業をしたあと午後4時から2度目の搾乳。

掃除や後片付けで作業が終わるのは午後7時過ぎ。

体調不良の牛がいれば昼夜問わず対応し、牛のお産で日をまたぐこともあります。

長引くコロナ禍による牛乳消費の慢性的な落ち込み。

また、最近の円安や国際情勢による飼料の値上がりも深刻な問題です。

「台風災害や熊本地震を乗り越えた時より大変です。」と、憲一郎さん

「毎日コップ一杯でいいので、牛乳を飲んでほしいです。」

牛乳が普通に冷蔵庫に入っていて、たくさんの方が毎日コップ一杯牛乳を飲む。

そんな日常が今後も続くことを願って、365日、搾り続けています。

隈部家の三人の娘さんたちにお話を聞いてみました。

酪農のお仕事って、どう思いますか？

「ちうと手伝うだけで疲れるのに両親は毎日やっていますし、こいと思えます。」長女 千代乃さん

消費者のみなさんへ、メッセージはありますか？

「両親が愛情をもってくついているから、味がこくて、とつてもおいしいです。」次女 琴乃さん

「地元の牛乳は学校でも飲めて、友だちもおかわりします。」三女 百利乃さん

最後に、雅子さんから。

「この子たちは牛乳を飲んで、健康に育ってくれました」

大変な状況の中、酪農家たちの思いはそれぞれ、でも、願いは同じです。

生乳品質共励会3部最優秀賞 熊本県菊池市（有）隈部牧場

ミルキープ
MILKEEP! 牛乳を、まもろう。

九州の空と風と大地から。九州 Love Milk Club www.mirutomiku.jp

生乳生産者需要確保事業（独）農畜産業振興機構（一社）中央酪農会議 後援



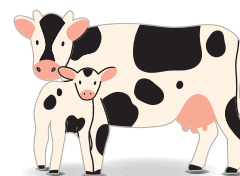
◆10月29日（土）掲載 令和3年度生乳品質共励会第3部最優秀賞：熊本県菊池市・隈部牧場さん

（掲載済みの新聞広告は、本会公式サイト（11ページ参照）から閲覧できます）

PAGs検査の利用について

本会検査所でPAGs検査を開始して4年目を迎えました。PAGs検査は、分娩後60日目、且つ、人工授精後の28日目から早期に空胎の牛を発見し対応することで、空胎期間を短くすることができます。また、乳汁による検査のため、牛にかかるストレスを軽減できる利点もあり、多くの生産者にご利用いただいています。

今回、PAGs検査をご利用いただいている生産者を対象にPAGs検査のアンケートを実施し、多数のご意見・ご感想をいただきましたのでご報告します。



1 アンケートの結果について

	PAGs検査を利用している生産者の感想・意見
早期受胎・不受胎の判定について	• 人工授精後28日目から検査できるため早期受胎が確認でき、次の授精も早期に行えるので助かっている。 • 早期不受胎の確認ができ、不受胎だった場合、次の種付けのための治療や飼養管理、再授精が早期に行えるようになった。
検査の簡便さについて	• 乳汁サンプルでの検査なので、獣医を待つ必要がなく、時間や経費が削減できるようになった。 • 受胎しているのに再度種付けするミス(発情の誤認)を防ぐことができるので助かっている。 • 妊娠鑑定するのに直接卵巣に触れないので流産のリスクがなく、牛にストレスがかからない。また、エコーでの妊娠鑑定に比べ、手間がかからないので良いと思う。
検査の正確さについて	• 妊娠鑑定の信頼性が高いので、非常に活用しやすい。 • 不受胎判定は100%ではないが、信頼性が高いと思う。

※アンケートの結果については、あくまで生産者のご意見ですので、最終診断については獣医師の診断でご確認ください。

2 質問・要望について

要望

- 検査は曜日指定ではなく、いつでも検査できる体制だと良いと思う。
- 週2回に検査回数を増やしてほしい。

回答

検査実施の頻度については、人員・コストを考慮し、検体を集約して週に1回（水曜日）検査を実施しています。
今後、依頼本数の増加により検査回数を増やす必要が出た場合、各会員と協議しながら検討し、検査の合理化を図りながら進めてまいります。

質問

- 稀に陰性判定で妊娠していたり、陽性判定で受胎していない時がある。何故か。

回答

妊娠・空胎の判定の正確さについては、PAGs（妊娠時に胎盤から分泌される蛋白質）の分泌が活発化する分娩後60日目、且つ、人工授精後の約28日目から妊娠の確認が可能であるため、日数を経過していない検体については検査精度が低下する可能性があります。分娩日数をご確認いただき、ご利用ください。
また、分娩後は、PAGs濃度は一気に低下せず、徐々に低下します。そのため流産（胚死滅）直後は陽性もしくは判定不良と判断される場合もあるため、陽性判定で受胎していない、もしくは判定不良の場合は再検査等を含めてご検討ください。

アンケートにご協力いただいた生産者の方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。
今回は、PAGs検査をご利用いただいている生産者を対象にアンケートを実施し、ご意見・ご感想を掲載しました。今後は具体的なデータをもとに、PAGs検査の導入効果を紹介していきます。